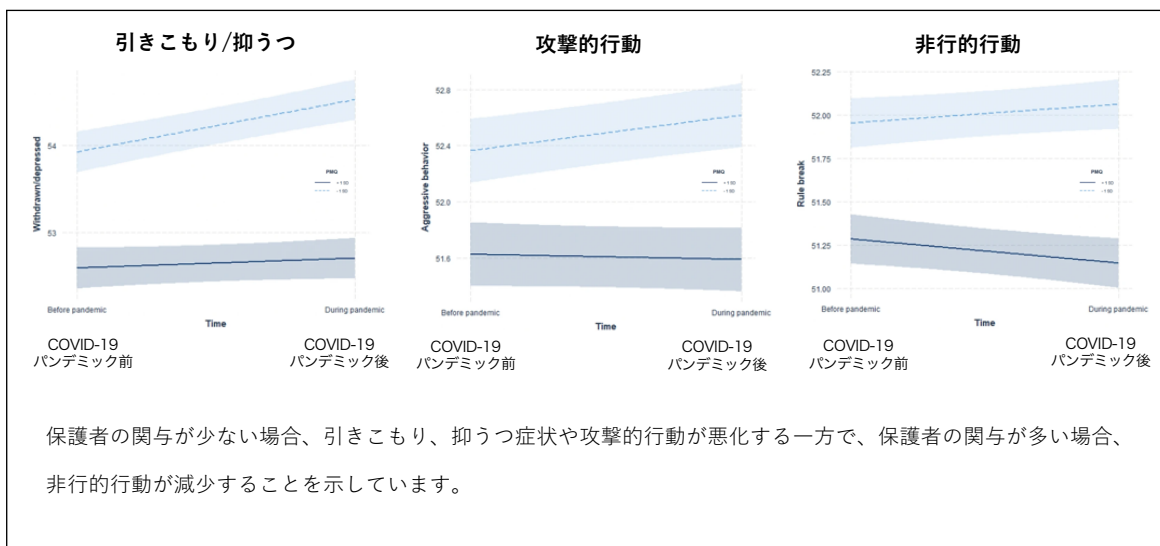


## COVID-19 パンデミック中における子どものメンタルヘルスの維持には保護者の前向きな関与が重要

福井大学子どものこころの発達研究センターの濱谷沙世特命助教、平岡大樹特命助教、水野賀史准教授らの研究グループは、COVID-19 パンデミック禍における子どものメンタルヘルスに対して、親の関わり方がどのように影響するかを調査しました。米国における大規模な縦断的多施設共同研究である ABCD (Adolescent Brain Cognitive Development) Study のデータベースを活用して、9～12 歳の 4,702 人の子どもを対象に解析しました。その結果、COVID-19 パンデミックが子どもの抑うつ症状と注意力の問題をわずかに悪化させることが明らかになりました。さらに、COVID-19 によって引き起こされた世界的な公衆衛生上の危機の間でも、前向きな親子関係は、思春期の子どもの精神的健康に保護的な影響を与えていることを明らかにしました。したがって、親子の関与を増やすことは、COVID-19 パンデミック禍の子どものメンタルヘルスにとって重要だと考えられます。



本研究成果は、国際医学雑誌 *Scientific Reports* 誌(オンライン版)に 11 月 15 日付で掲載されました。

Hamatani, S., Hiraoka, D., Makita, K. et al. Longitudinal impact of COVID-19 pandemic on mental health of children in the ABCD study cohort. *Sci Rep* 12, 19601 (2022). <https://doi.org/10.1038/s41598-022-22694-z>

本研究は下記の支援により実施した成果です。

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C：水野賀史（研究代表者）
- 福井大学学長裁量経費（ミッション実現戦略経費）